

[今月のトピック]

原油価格高騰に対し比較的弱い中国、韓国

<ポイント>

1. このところイラク情勢が緊迫しているが、イラク戦争が始まった場合、情勢の進展によっては原油価格が高騰する可能性や、中東からの原油供給が不安定化する可能性がある。
2. 鉱物性燃料輸入金額の名目GDPに対する大きさを比較すると、日本・米国・EUなどに比べ韓国が高く、中国も近年は増加している。また、各国の輸入先を比較すると、日本・中国・韓国では中東からの輸入比率が高くなっている。(図1、表2)
3. 各国の輸入依存度を比較すると、日本・韓国・ドイツではほぼすべてを輸入している。ただし、原油供給が不安定化した際に備える備蓄量では、日本・米国・ドイツでは比較的多いのに対し、中国の備蓄量は1ヶ月強程度と少ない。(図3、図4)
4. エネルギー利用の効率性を各国で比較すると、中国、韓国では効率性が低く、多量のエネルギーを投入している。(図5)
5. これらのことから、原油価格の高騰、原油供給の不安定化といった事態に対し、中国、韓国は比較的弱いと考えられる。今後の原油市場の動向を注視していく必要がある。

図1 鉱物性燃料輸入 / GDP (01年)

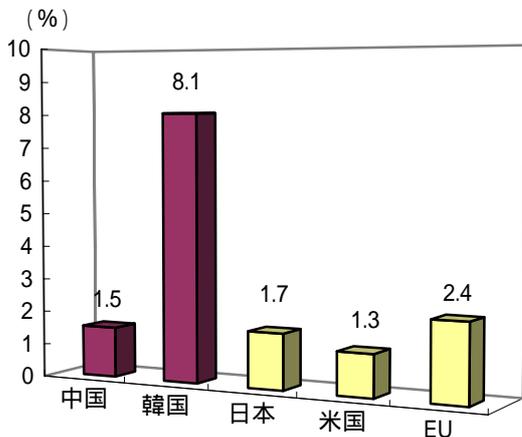


表2 原油輸入相手先比率(01年)

| | 日本 | 中国 | 韓国 | 米国 | ドイツ |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| OPEC | 93 | - | 84 | 57 | 29 |
| 中東 | 89 | 56 | 76 | 28 | 11 |
| 非中東 | 5 | - | 8 | 28 | 18 |
| 非OPEC | 7 | - | 16 | 43 | 71 |
| 計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

図3 石油輸入依存度(00年)

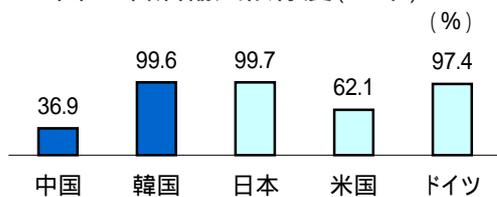


図4 石油備蓄日数

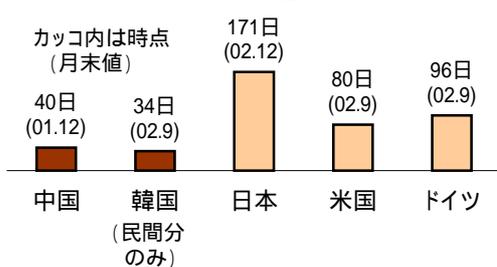
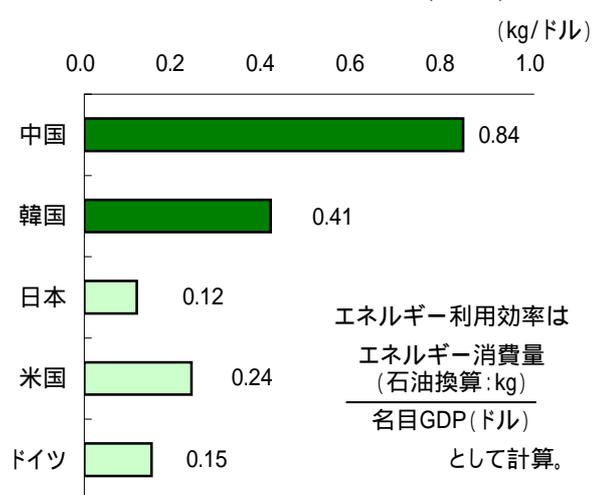


図5 エネルギー利用効率(98年)



(出所) 図1 WTO、内閣府 表2 IEA、中国は新華通信社(日本エネルギー経済研究所資料より)

図3 IEA 図4 日本は資源エネルギー庁資料、中国は日本エネルギー経済研究所調査、その他はIEA

図5 国連(総務省「世界の統計」より)、内閣府